学習院女子大学

〒162-8650
東京都新宿区戸山3-20-1
入試係
TEL 03-3203-1906
http://www.gwc.gakushuin.ac.jp/

神田典城学長

1877（明治10）年に始まった学習院や1885年に創設された華族女学校が基盤となっている、学習院女子大学。1998（平成10）年の開学当初から時代を先取りした「国際文化交流学部」を設置し、一貫して国際化を見据えた教育を行ってきました。さまざまな分野について学ぶことができる多彩な開講科目や、体験型の海外研修などの充実したプログラムにより、21世紀の社会で求められるグローバル人材を育成しています。

日本の文化や伝統をより深く学び、その本質を伝える語学力を身に付けることが、海外の文化を理解することに繋がります。それは日本の伝統文化に立脚した学習院だからこそ可能な、地に足のついたグローバル教育なのです。

日本の伝統を学び、世界の文化を知る 真の国際文化交流で育まれる 時代を先導するグローバルな教養人

3つの異なるアプローチから「国際文化交流」を学ぶ

学習院が華族の学校として設立されたのは1877（明治10）年のこと。8年後の1885年に発足した華族女学校から幾度かの変遷を経たのち、1998（平成10）年に学習院女子大学が誕生。グローバル時代を先取りした「国際文化交流学部」を設置し、日本と海外との相互関係についての新しい教育・研究を展開するなど、開学当初から注目を集めてきました。

国際文化交流学部では3つの学科を設置しており、それぞれ「日本の文化を深く学ぶ」「国際関係や地域文化を中心に学ぶ」「高度な英語を集中的に学ぶ」という、異なるアプローチをとっています。

日本文化学科では、民俗・歴史、日本語・日本文学、芸術文化・アートマネジメント、現代文化の4つのフィールドから総合的に日本文化を理解し、その伝統と特質について世界に発信する能力を培います。

国際コミュニケーション学科では、国際関係、コミュニケーション、比較文化・地域研究という3つの柱を軸とし、国際社会のあるべき姿や、異文化理解、いかに相互関係を構築するかなどについて学びます。

英語コミュニケーション学科では、2年次に全員がカナダの協定校であるレスブリッジ大学で6カ月間の留学を行います。少人数制で高度な英語コミュニケーション力を養うほか、国際社会、国際関係などについて学んでいきます。

多様な分野を学ぶことが異質な相手の理解に繋がる

また、いずれの学科においても1・2年次では多様な分野の必修選択科目を履修する必要があり、未知のジャンルと出会う契機となります。共通科目も幅広く設定されており、外国語科目1群・2群や国際文化交流論科目群、情報技術科目群、ボランティアやマナーなどを学ぶ社会演習科目群などがあります。その中でも、茶道や華道、書道、香道、有職故実などが用意されている伝統文化演習科目群[1]は、学習院ならではのものだと言えるでしょう。さらに意欲のある学生は、f-Campus[2]を利用することで、より幅広い学びが可能となっています。

学生時代に様々な分野について学ぶことで、教養が広がるのはもちろん、異質な文化や異なる意見を受容する姿勢も身に付け、その中で自身の価値観や自ら考える力も養われるのです。そのことは社会に出てからも、様々な立場で自分の力を十全に発揮できる強さ、柔軟さにつながります。

2017年4月に就任した神田典城学長は、次のように語っています。

「音楽の用語から始まった言葉に「クロスオーバー」という語があります。異なったジャンルの音楽が融合しあって新たな音楽世界を作り出すことです。各々のプレイヤーが他のジャンルの音楽を理解し、それぞれの担い手を尊敬しあうところに融合が生まれるのです。文化の出会いもこの「クロスオーバー」へと向かうのが好ましいのではないでしょうか。互いの文化を尊敬し、理解することに成功すれば、衝突はあり得ないでしょう。そこに至る出発点は自分の文化を絶対視しない視点を持つことにほかなりません。自分の文化をよく理解したうえで、世界の様々な文化に触れることこそが、相対的な視点を確保し、他を理解し、尊敬する態度を生み出すでしょう」

豊富な海外研修プログラムで生きた国際感覚と視野を育む

語学研修だけにとどまらない、プラスαを備えた体験型海外研修プログラムを豊富に設置しているのも、学習院女子大学の大きな魅力です。15カ国23校の大学と単位互換の協定を結んでいるほか、カナダのレスブリッジ大学とのダブルディグリー留学[3]なども用意されています。

また、ワシントン・セミナーでは、アメリカの首都であるワシントンD.C.において、各種の国際機関や文化機関、行政機関、歴史施設などを訪問し、第一線で活躍している人々との交流を通じて、国際協力や文化交流、アメリカの政治・経済・社会・文化についての理解を深めます。

さらに、カナダ・オーストラリアでの4週間にわたる語学研修・海外ボランティアをはじめ、ベトナム、中欧、ラオス、ルワンダなどで国際協力研修も実施。また、国際交流に関するシンポジウム、ワークショップ、昼休みの母国紹介といった留学生との交流イベントも開催しています。こうした取り組みは2009～16年度に「グローバル教育コース」（JICA主催、09・10年度は外務省主催）において8年連続での団体奨励賞（11年度までは学校賞）受賞として評価されています。

絶好の立地で送る学生生活 キャリア育成は個別にサポート

近年、大学の「就職力」がより問われるようになっていますが、学習院女子大学では学生一人ひとりにあわせたキャリア育成をきめ細かくサポートし、高水準の就職力を誇っています。各種キャリアアップの目的で学習院さくらアカデミーの充実したプログラムの利用も可能です。

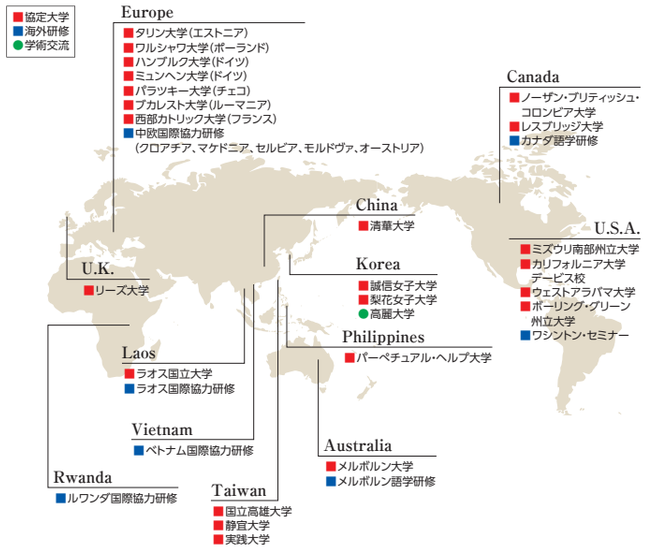
また、入学試験においても注目すべき変更点があり、2018年度には一般入試で完全Web出願に移行しました。その他、2016年度から実施している「入学試験成績優秀者授業料減免制度」など、新たな試みが導入されています[4]。

新宿にほど近い立地ながら緑豊かな戸山キャンパスは、現地に移転した1946年当時の趣を持つ歴史的建造物が残る一方、先進的な設備も整えられています。比較的小規模な大学であるからこそ、学生同士や教職員との距離も近く、学生生活を満喫できる絶好の環境が整っています。

「学習院女子大学は、かたちとしては三学科に分かれていますが、各学科を基盤としつつ、さまざまなジャンルの学問が体験できます。みなさん、どうぞ本学の用意した多彩な専門分野に触れて、真の文化交流に至る道へと踏み出してください」と、神田学長は語っています。

少人数制の授業が多く、教員との距離が近い

学習院女子大学から世界へ ～グローバルネットワーク



(1) 伝統文化演習科目群

日本の伝統文化について、実技と知識の両面から理解を深めるために用意された共通科目で、日本文化学科以外の学生も履修することができる。家元や宗家といった著名な講師陣から講義・実技指導を受け、文化的背景から歴史に至るまでの知識も身につけることができる。

(2) f-Campus = 5大学間単位互換制度

学習院女子大学、学習院大学、日本女子大学、立教大学、早稲田大学の5大学が2001年度からスタートさせた、学部レベルでの本格的な単位互換制度。各大学が提供する科目は併せて2000科目以上を数え、年間12単位、3年間で最大36単位が修得可能。そのうち最大30単位までを卒業単位に算入することができる。

(3) ダブルディグリー留学

学習院女子大学に在籍しながら海外の大学に留学し、それぞれの大学で修得した単位の一部を両大学が相互に単位認定することで、それぞれの学位を取得できる制度。現在はカナダのレスブリッジ大学との間で実施しており、将来国際社会の第一線で活躍したいと考えている学生にお勧めの制度。

(4) 一般入試の変更点と特徴

2018年度から、一般入試はWeb出願のみとなった。試験日はA方式とB方式に分かれており、2回の出願が可能。センター試験対策が活かせる、総合力・基礎力を問う出題となっている。また、2016年度から一般入試A方式の成績上位者の入学年度授業料相当額を免除する「入学試験成績優秀者授業料減免制度」が開始している。